

# SMI(サンデン経営研究所) メールマガジン 第8号

## 【本号のテーマ】

- ・連載・自伝エッセイ<新しい旅>  
[加藤幸男著](第6回)完
- ・編集者のつぶやき  
「品質管理ツールの使い道」って何?(第5回)
- ※編集後記<編集者より>

サンデン経営研究所・洋館



2023年1月29日発行

# 連載・自伝エッセイ[加藤幸男著]第6回(完)

SMI

## ■自伝エッセイ<新しい旅>を連載で掲載します

この度、SMI加藤常務理事より、A4版8枚からなる自伝エッセイが寄稿されました。この場をお借りして順次紹介してまいります。ご自身の教育・芸術に対する想いや、米国留学時代の半生がありのままに記述されております。

皆さまからご好評いただいたこの連載も今回が最終回となります。SMI加藤常務理事のご寄稿に、この場をお借りして、多大なる感謝を申し上げます。

### ●美術品のオークション

私は、ニューヨークに渡る前からアンリ・マティスのある言葉にくぎづけにされていました。それは、1930年2月にニューヨーク滞在中のアンリ・マティスの「出来る事ならニューヨークに住みたいものだ、そこは、海のように広大で威厳があり、全く新しい世界である人間の大きなエネルギーの放出がある」という言葉でした。後にメトロポリタン美術館通りが激しくなってから、ニューヨークは、マティス作品に触れるには絶好の立地であることを知るに至りました。私は、メトロポリタン美術館で600ドルほどのドガの「踊り子」のブロンズ像(レプリカ)を購入した際に、メトロポリタン美術館の通常会員になり、館からのニュース・レターを送ってもらっていましたが、2008年時点ですらマティス作品の購入がありました。

また、オークションは、パリからニューヨークに移って双方で行うことも多いことを知りました。2009年2月23日～25日にパリのグラン・パレで「イヴ・サンローラン&ピエール・ベルジェ・コレクション展」が開催されたというニュースが、ニューヨークにいる私の元にも飛び込んできました。グランパレでのプレビューでは、イヴ・サンローランのアパルトマンを再現、3日間で3万人の観客が訪れたというのがニュースの内容でした。



(著者による模写)

オークションは、クリスティーズ史上最大規模の会場で行われ、各セールに1500人を超える人々が集まって盛大に行われたそうです。絵画、装飾美術、銀器、全てのカテゴリーでオークション・レコードを出し、落札総額が3億4240万ユーロ(約415億円 当時)と個人コレクションとしては史上最高記録をマークしました。フランスのオークションに詳しい方によると、現在のフランスのオークションも、世界的傾向と同様、**オークション落札者は、アラブ人富裕層、アジア圏内ですと中国人の割合が増え、フランス人は、上部の一握りの方が元気と言う状況だそうです。**

これまで、オークショニアが口頭で商品を説明し、ロットと商品名、エスティメート(予想落札価格)が記入されている紙を貰うだけのシステムだったが、最近は、高級路線になったためかカタログも10~15ユーロで1階のエントランスで売られている。特に電子ボードの導入で、取引がより明確なった影響で、**商品の高額化**が著しいようです、いざれにしろフランス語必須は昔の儘、オークション会場は未だに業界人(プロ)が大多数で、我々は、勿論、「**およびじやない**」状態です。

しかし、アンリ・マティスの「黄水仙、青とバラ色の敷物」1911年 油彩 キャンバス31.9×25.8cm 落札金額約43億5100万円 といった珠玉の名品が登場する等するので、私としては、目が離せません。作品を購入することは、出来ませんが、**作品から啓発**されインスピライヤーされることが多いことを思うと推しの作家の作品は、その売買情報すら貴重なものなのです。また、フランスでは、オークショニアは、国家資格を有し、オークションにかけられた作品に対して10年間の**責任期間**があるそうで、芸術品に対する厳密・厳格な姿勢が感じられるところです。

こういった海外での多くの美術作品との出会いが、私を啓発し、**作家研究**にのめり込むことになってしまいました。副産物は、自宅を埋め尽くす多くの**模写作品**です。



(ご自宅の絵画)

## (おわりに)

この小記事で、つたない筆ながら、わが師、平岡篤頼先生についても少しうかがいましたが、今、私の日々の生活のモティベーションは、早稲田の先生方の影響で形成されていることが解って参りました。

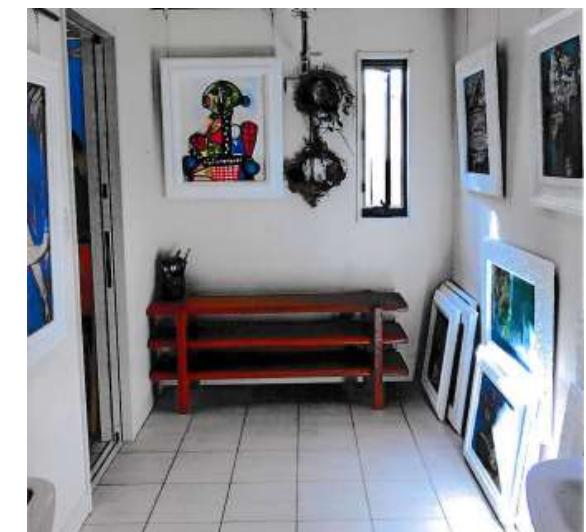
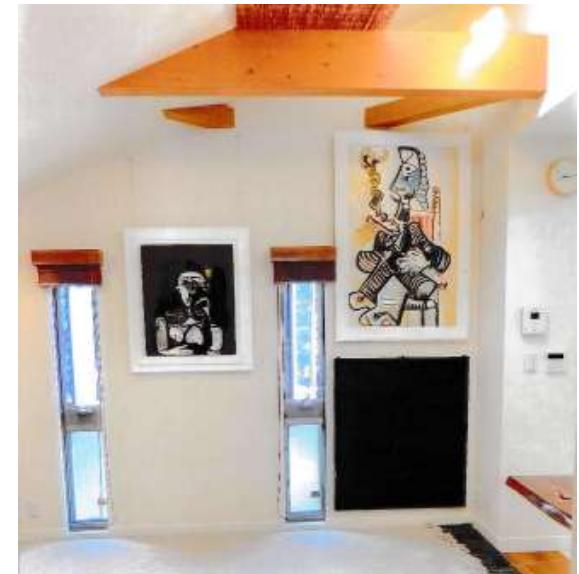
私が早稲田で最も影響をいたいたいた坂崎乙郎先生は美術評論、安藤更生先生は仏教美術史、今井兼次先生は建築と専門も学部も違いますが、共通するのは、それぞれの先生方は、その存在自体に豊穣極まりない価値が感じられ、学ぶ者を差別せず、同じ視線で接してください、大人とは何かを見せつけてくださったということです。

分かりやすく言うならば、それぞれの先生方が、是非このような人になりたい、少しでも近づきたいと思わせる先生方だった事です。青春の志を若き胸に湧き立たせつつ、私は、そういった先生方、すなわち学生と同じ視線に立ち、学生の可能性を信じてくださる先生方に憧れに憧れたものです。

さて、わが母校早稲田大学のキャンパスには、大隈庭園奥にある学生食堂に至る遊歩道の片隅に「戦没学生の碑」がひっそりと建てられています。碑の裏面には、第二次世界大戦で学園の教職員・学生4500名余が亡くなつたことが記されております。また、併せて当時の一女子学生の読んだ歌が刻まれております。ここにご紹介させていただきます。

『征く人の征き果てて 音絶えし校庭に  
落ち葉舞うなり 黄に輝きて』

平和が無ければ学問も芸術も成り立ち得ません。戦争というものの終焉を切に切に祈念いたしております。(完)



(ご自宅の絵画の数々)

# 編集者のつぶやき

## ■問題解決[品質管理ツールの使い道]って何？(第5回)

### ●効果の具合を検証する

#### (データを見る、有意差検定、正規分布外れ)

さて、皆さん、今回は『編集者のつぶやき』「問題解決[品質管理ツールの使い道]って何？」の連載?第5回です。前回の第4回では、対策や予防処置の案を考えて、ちゃんと出来るのか検討する(対策内容、検査、プロセス、実行可能性検証、量産試作)でしたね。息切れしないように、かつ、本メールマガジンの趣旨としての「ありのままで肩の凝らない読み物」として、真に役に立つ情報を発信していくという方針で、あまり頑張らない程度にありのままで発信して参ります。

### ・まず、データって何？

さて、「データ」と言うとき、皆さんは何を思い浮かべますか？最近は、ネットなどの媒体がやたら騒ぎ立てるので画像やIoTデータも含めた「ビッグデータ」のことを「データ」と思っているひとも多いようですが、ここではそれはあえて対象としません。

つまり、身長とか体重とか、感染者数とか、人口とか、何らかの意味をもった、数字のひとかたまり、と思ってください。

例えば、小学校の理科の時間に、気温や温度を測って記録したり、ものの大きさや重さを測って記録したり、そういうふた、世の中の物や現象を数値化して、扱いやすく表記したものを「データ」としましょう。

最近は「ビッグデータ」のことが  
データだと思っているひとも多い



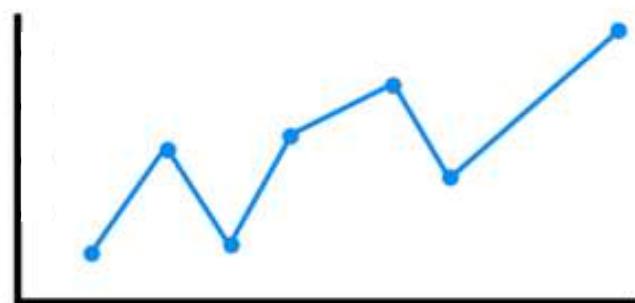
## ・データを見る、ってどういうこと？

コロナの時代になってから、新規感染者数のグラフを、テレビやネット上などで見ることが多くなりましたね。このグラフが、データを見るこの基本中の基本ですね。一番皆さんのがなじみの深いのが、棒グラフと折れ線グラフでしょうね！

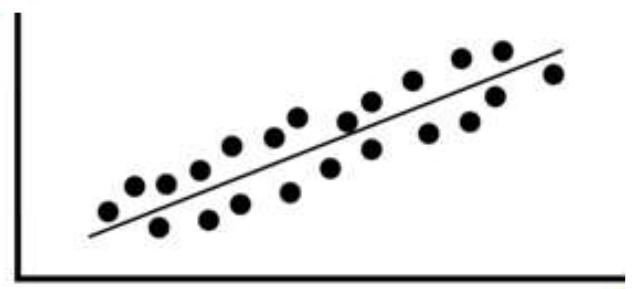
棒グラフは、データの数(多さ)を小さい順などに並べたものと、時系列で古い順に並べたものとの、大きく分けて2種類ありますね。



折れ線グラフは、やはり時系列で古い順に並べたもの(気温グラフのようなもの)と、比率やパーセントを現したものと、これも大きく分けて2種類ありますね。



散布図というグラフは、ある一定の法則(例えば比例関係)の2つの項目を、X軸とY軸で(点などでデータを)プロットして、その関係性を示したものが、一番多いですかね。



実は、もっと色々なグラフがあるのですが、こここの説明では、基本的に上の3種類しか使いません。

## ・正規分布ってな～に？

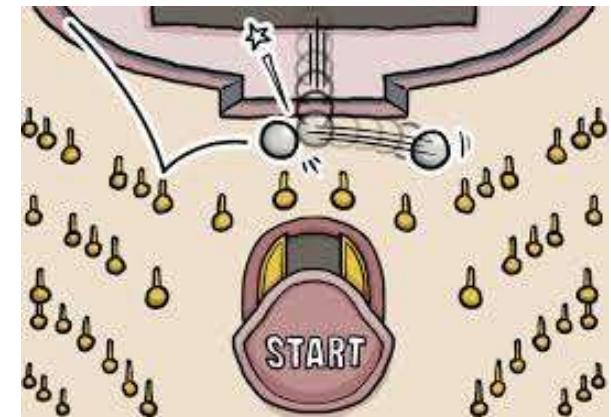
さて、では、「**有意差検定**」というもののイメージを掴みましょう。おっと、その前に、「**正規分布**」という考え方から理解しなければなりません。（統計学者さんという人たち？はなぜかカンタンなことを、ムズカシイ言葉で表現するのが好きらしく、こまったものです）←ひとりごとです

皆さんは**パチンコ**ってやったことがありますか？銀色の球を上方に打って、落ちてくる玉がスポットに入ると当たりになるやつです。

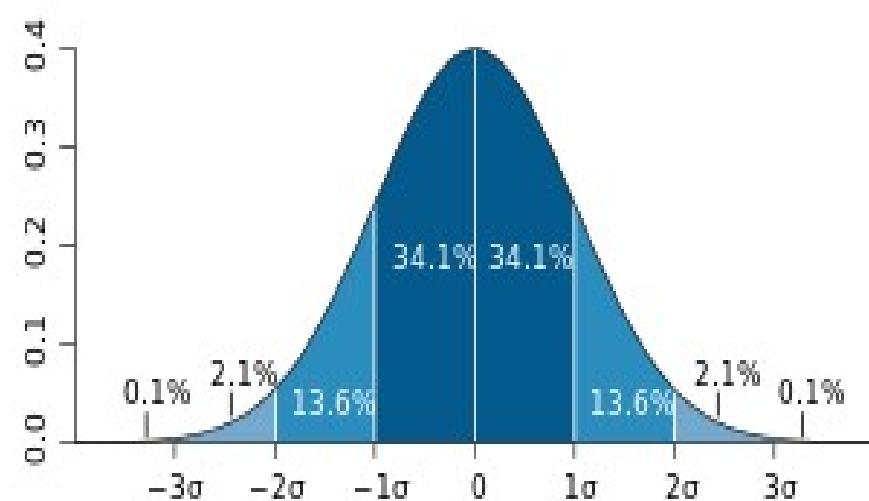
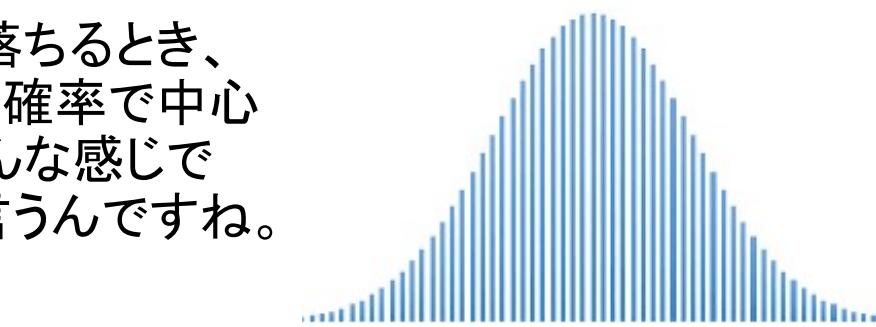
この時のパチンコ玉の動きって、上から下に落ちるとき、釘にあたって左右に振られますが、大体はある確率で中心付近に集まりますね。これをグラフに書くと、こんな感じです。この“**釣り鐘型**”の形 자체を「**正規分布**」と言うんですね。

この「正規分布」をもっと詳しく調べたひとがいて、そのひとは、中心付近の $\pm 1\sigma$ （1シグマ）という範囲に全体の**約68%**が、 $\pm 2\sigma$ （2シグマ）という範囲に全体の**約95%**が、 $\pm 3\sigma$ （3シグマ）という範囲に全体の**約99.7%**が存在すると言われています。

これって、そうです、試験の偏差値という考え方の元ですね。世の中を変革するのは、往々にして、裾野の上と下の0.3%の人たちですね（個人の意見です）。



多少差はあっても、大体こんな感じの形



## ・有意差検定ってな～に？

さて、ここでやっと、本題にもどって「**有意差検定**」のお話です。

実は、先ほどまでの「**正規分布**」という考え方を使うと、対策前後のAという状態とBという状態の2つが、本当に効果的に**差があるのかどうか**、統計的に判定ができます。

最近の例では、**コロナ治療薬の治験**の検証例が、これに該当すると思われます。

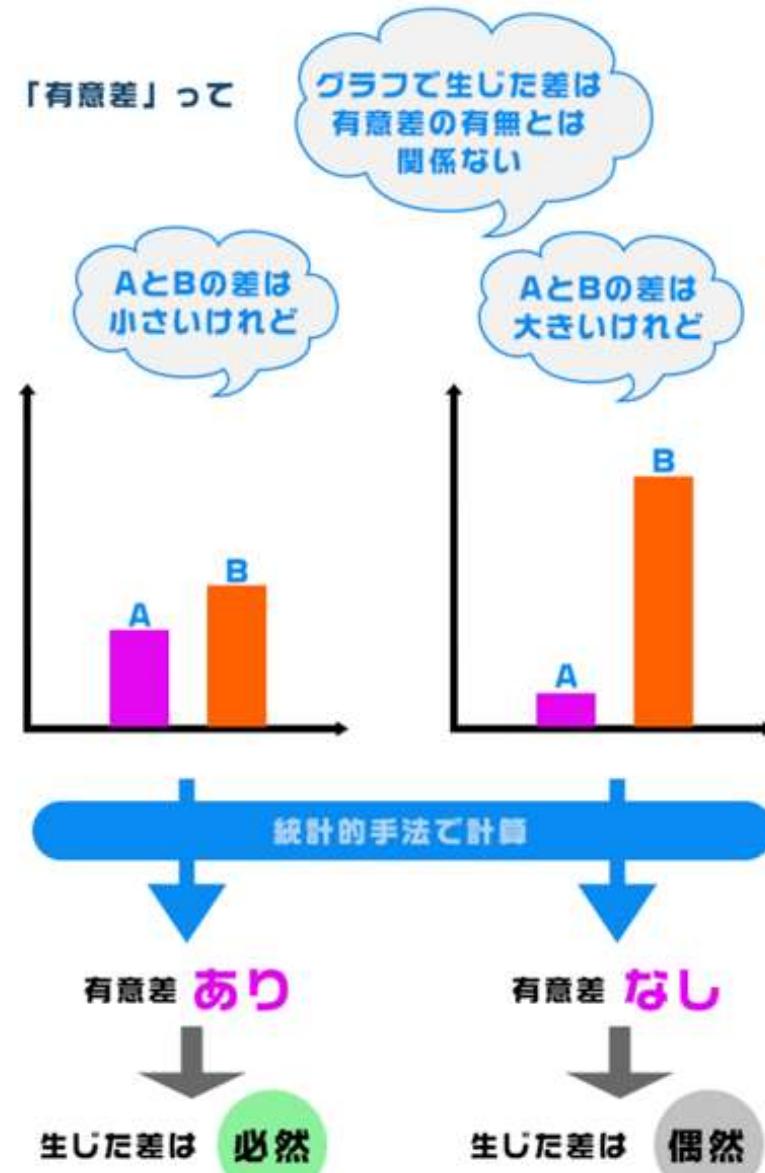
モノづくりある事象で、何か対策を打った時にホントに**効果**があるかどうかの**判定**は、この手法をつかうと、カンタンに出ます。

「**危険率(有意水準)5%**で、**有意差がある(ない)**」とかデジタルに判定が出ますから、何も悩む必要はありません。

これを「**平均値の差の検定**」という呼び方をする場合もあります。

細かい計算のやり方は、**ネット上**や**YouTube**など、いくらでも説明が出ていて、それを参考にしたり、最近では入門者向けの**書籍**もたくさんありますし、表計算の**Excel**上でもできますね。

**薬事承認するお役さんは、こういうこと、判ってますかね？**



## ・正規分布外れとは？

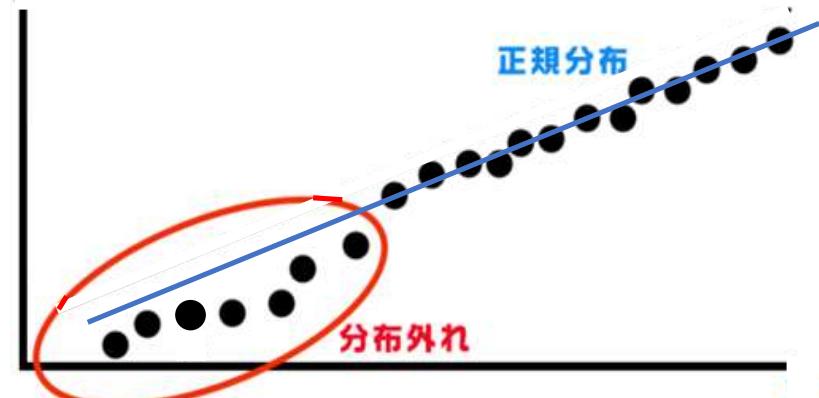
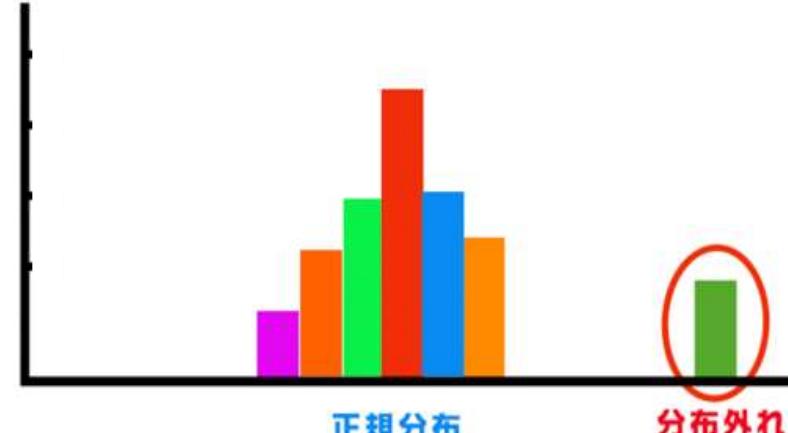
さて、最後に、「正規分布外れ」のお話です。

つまり、先ほどまでの「正規分布」という範囲に収まらずに、メッチャクッチャ外れた、とんでもないヤツを、どうやって見つけるか？というお話です。学校の正門で、登校する生徒たちの髪型や服装・鞄などをチェックする、**生徒指導担当の先生**みたいなものです。

モノづくりや品質管理では、そういう飛び抜けて「**変なヤツ**」を見つけるだけでも、ずいぶんと安定した感じになります。

こういう、「**変なヤツ**」を見つけるのに、もし「**プロセス管理**」という手法が効かないなら、もうこれは「**選別(スクリーニング)**」という最後の手段を使うしかないのですね。

なお、こういう「**変なヤツ**」は、「**正規確率紙**」や「**ワイブル確率紙**」という手法を使っても、カンタンに発見できますので、是非ご活用ください。(表計算Excel上でも簡単にできます)



(あくまでイメージ図です)

# ※編集後記<編集者より>

## ●感動があるからこそ価値が認められる

さて、今回がSMI加藤常務理事よりご寄稿の、エッセイ<新しい旅>の最終回でした。皆さま、いかがでしたか？

絵画や芸術のセンスがない編集者からしても、世の中には「モノ」の充実だけでは、決して喜びや楽しさ・生きがいを生むものでなく、「コト」があって感動するからこそ、その価値が認められるのだと思いました。

事業やシゴトに関しても、利益や収益・〇〇品質賞受賞・〇〇国際規格合格・市場シェアなどの「モノ」を目標とした事業やシゴトは、それを完遂した(やり遂げた)時点で、終わりに近づく？ことが多いですね？ 実は、この時点での「モノ」というのは、「コト」の必要条件を揃えただけなんですね。

それに反して、「コト」を目標とした事業やシゴトは、永遠に発展し継続するでしょう。たとえば、会社の経営方針に『ステークホルダー(利害関係者)の幸せ』や『社会への貢献』『顧客の感動』『スマート商品』を謳った企業がその例です。

こんなことを言いたいがために、このメールマガジンもやっと第8号まできました。皆さま、これからも引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。



「まるメガネの森より」